

大腸内視鏡検査 同意書

【大腸内視鏡検査について】

内視鏡を肛門から挿入し、細心の注意を払いつつ、直腸から盲腸、回盲部までを、詳しく観察する検査です。腸管への負担が少ない、安全性の高い挿入法を行います。検査時間は10-15分前後です。必要時、組織検査を行います。

【偶発症】

- ① 内視鏡挿入に伴うリスク:非常にまれですが、術後癒着などにより腸管出血や穿孔(腸管に穴が開くこと)があります。(多数の自験例で穿孔率は0%です。)
 - ② 組織検査後の出血:稀ではありますが、帰宅後に出血が続けばご連絡ください。
 - ③ アレルギー・鎮静剤によるもの:注射部の血管痛/薬疹/ショック/呼吸抑制等。
- ※これらの予期せぬ偶発症は、稀ではありますが入院が必要になることもございます。ご確認の程、宜しくお願いします。

【麻酔(鎮静剤と鎮痛剤)を使用した経口胃内視鏡】

- ① 鎮静剤にてねむたい状態となり、リラックスして検査を受けられます。
 - ② 安全性を高めるため、呼吸・心拍モニターを装着します。
- ※検査後、リカバリールームで1時間ほどお休みしていただけます。また、鎮静剤は判断力の低下、ふらつき、転倒の危険性が高まります。検査当日のお車の運転、機械操作・高所作業等はできません。

【麻酔を使用する大腸内視鏡について】

麻酔を用いた検査を 希望する 相談して決める 希望しない

【内視鏡的大腸ポリープ切除術】

大腸ポリープが認められた場合、その場でポリープ切除術を行うことができます。

- ・日帰り治療が可能です。
- ・切除したポリープの大きさや回数などにより、1-2日間の安静が望ましいと判断した場合は、近隣の提携病院へご入院が必要になることがあります。

【大腸ポリープ切除に伴う偶発症】

- ・治療後1週間程度は後出血の危険性があります。
 - ・ポリープ切除後1週間は禁酒とし、遠出の旅行・激しい運動も控えて頂きます。
 - ・ごくまれに、穿孔(超に穴が開くこと)があります。(多数の自験例では穿孔率は0%です。)
- ※これらの予期せぬ偶発症は、稀ではありますが入院が必要になることもございます。ご確認の程、宜しくお願いします。

【I&T 胃腸と脳のクリニック院長殿】

上記内容の説明を受け、質問をする機会を得て、内容を理解しましたので、大腸内視鏡検査の実施に同意いたします。なお、上記の医療を行う上で必要な処置において予期されない状況が発生した場合は、それに対処する緊急処置を受けることも併せて同意します。

年 月 日

患者様または親権者の署名:

問診確認者:

